

いずみさの 教 育



問合先
学校教育課

未知の社会を生き抜く力を

令和2年度、いよいよ小学校の学習指導要領が本格実施となりました。中学校の学習指導要領は令和3年度から本格実施となります。

今回の学習指導要領には、「これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。」といった願いが込められています。

そして、これからの教育では「学んだことを人生や社会に活かそうとする。学びに向かう力、人間性など」「実際の社会や生活で生きて働く。知識及び技能」「未知の状況にも対応できる。思考力、判断力、表現力など」の3つの力を育みます。IT化、グローバル化、少子高齢化など、急速に変化する現在の社会。それに伴い表出する様々な人権課題。加えて度重なる自然災害。10年後はまさに未知の社会といえるでしょう。しかし、10年後を待たずとも、「予測困難な社会」が一気に押し寄せてきました。新型コロナウイルス感染症です。姿の見えないウイルスと、先の見えない不安との闘いが突然のようになりま

ました。令和2年度の幕開けは、新学期を心待ちにしていた子どもたちにとって、本当に辛く、子ども時代の大切な時間を奪われたような感覚だったのではないのでしょうか。このような中、わたしたちは前を向いて、今できることを一つずつ見つけ、実践していく他ありません。わたしたち大人がつながり、他者と協力しながらこの困難を乗り越えていく姿こそが、子どもたちにとって何よりの教材であると信じています。

学習指導要領の改訂により、「プログラミング教育」の導入、小学校5・6年生の「外国語」の教科化、学習評価の観点から4観点から3観点到整理されるなど、教育が大きく変わります。外枠の改訂に留まらず、内容の充実に向けていきますので、引き続き学校教育へのご支援ご協力をお願いします。

学校園紹介



「100周年を迎えた第二小学校」 ～第二小学校～

大正9（1920）年に創立された第二小学校は、今年で100周年を迎えています。大正から昭和、平成、令和へと時代が進む中で地域の発展とともに変遷してきました。創立当時の在籍児童数は668人だったようですが、昭和50年代には1,600人を超える年もあったようです。現在は700人前後の在籍数になっています。



ここ十年ほどの間に校舎や体育館が新しく建て替えられ、また去年はプールが建設され、学校全体の風景が大きく変わりました。校舎や体育館は真新しくなりましたが、校庭の桜の木は昔から変わらずその姿を留め、入学時期にはきれいな花を咲かせています。桜の木は二小のシンボルになっていて、地域のみなさんにも親しまれ、校章のデザインにも使われています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、社会全体、子どもたちにとっても困難な状況が続いていますが、100周年を迎えた今年、この困難を乗り越え、新たな歴史が刻まれていくことと思います。



互いに認め合い高め合う集団づくり ～日根野中学校～



日根野中学校では「集団づくり」を教育活動の中心に位置づけ、生徒の自治的・主体的な活動を推進しています。10月に開催予定の体育大会では、異学年で一つの連合を組織し、連合対抗で互いに競い合うのが本校の伝統的なスタイルです。行進や競技、応援の練習、応援旗やマスコットの制作などの準備はすべて各々の連合に委ねられています。その推進力となるのは最上級生である3年生で、連合委員長を中心に連合独自の練習計画を練り上げていきます。初めは緊張してぎこちなかった指示の声も、練習を重ねるにつれてしっかりと通るようになり、優れたリーダーシップを発揮してくれています。大会当日は途切れることのない応援の声がグラウンドに響き渡り、この取組を通じてリーダーが育成され、質の高い生徒集団が形成されていきます。

また、本校には「かかしの会」という町別リーダー養成組織があり、クラフト体験や野外活動実技など、年間を通じた講習会を経て認定されたリーダーは、地域の子ども会のキャンプや市のふれあいハイキングなどでゲームリーダーとして活躍するだけでなく、長期的には地域を支える人材として貢献してくれています。これからも日根野中学校では学校、保護者、地域が連携して、子どもたちの成長を支援していきたいと思

います。

